

令和3年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	6		学校名	茨城県立多賀高等学校					課程	全日制			学科	普通科		
校長名	鈴木 好美				教頭名	鈴木 圭一				事務(室)長名	大川 由紀					
教職員数	教諭	41	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	4	実習教諭 実習講師 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	58
生徒数	1年			2年			3年			合計			学級数	1年	6	合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		2年	6	
	128	112	240	116	118	234	118	120	238	362	350	712		3年	6	

2 目指す学校像

(1)校訓「最善を尽くして颯爽たれ」及び校是「師弟同行・文武不岐」の精神に則り、「知・徳・体」の調和のとれたたくましい「人間力」を育む学校
(2)授業を中心に、生徒一人一人の可能性の開発に努め、進路希望の着実な実現をサポートする学校
(3)特別活動を中心に、よりよい社会づくりに貢献しようとする「シチズンシップ」を培うことにより、地域や保護者から信頼される学校

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析		課題
	取組の実績	成果	
学習進路	<ul style="list-style-type: none"> ○学習課題(教科・Classi・スタディサプリ)利用による家庭学習時間の拡大 ○1年時から進路ガイダンスの実施 ○生徒面談の充実(各担任5回程度) ○模擬面接、検定試験の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能検定合格者【準2級以上】の増加(R1→R2) (実用英語28→59人、数学7→69人、漢字42→45人) ○四大進学者のうち「一般」受験者率(R1→R2) (26.1→17.1%) ・国公立大「一般」合格者(0人→1名) ・進路希望実現率(95%→97%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の増加と基礎学力の向上と定着 ○主体的な学習態度の構築と大学入試共通テストへの対応 ○進路指導体制の体系化と定着 ○ICTを活用した効果的な学習体制の構築
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣の確立と生徒の状況に沿った指導の徹底(教育相談)～朝昇降口(毎日)での登校指導、教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○皆勤率増、遅刻者の減少 ○生徒指導(交通関係含む)の指導件数減 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい人間関係の構築(不登校等への対応) ○SNS等利用モラルの一層の向上
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会委員会、委員長会議の定例開催 ○クラスマッチの2日間実施 ○LHR等でのキャリア教育の充実 ○1年前期全員部活動加入制(1・2年末加入率各97%・95%) 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感の向上 ○学校やHRへの帰属意識が向上 ○自己目標に沿った進路選択 ○部活動参加による自己達成感の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○より一層の主体的行事運営 ○感染症予防対策に沿った行事運営 ○キャリアパスポートの効果的利用 ○休養日の適切な設定、効率的活動
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ○きんむくんによる勤務時間管理の徹底 ○部活動休業日の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職による面談の実施 ○週1回の部活動休養日確保 	<ul style="list-style-type: none"> ○超過勤務時間の削減 ○部活動指導の分担

4 中期的目標

(1)地域から信頼され選ばれ続ける持続可能な学校づくりに全校を挙げて組織的に取り組むことにより、中卒者激減に適切に対応する。
(2)新学習指導要領・大学入試共通テストに対応できる学習進路指導体制を構築することにより、増加する大学進学ニーズに応える。
(3)生徒に学校づくりの主役として自治的な体験を増加させることにより、主体的な態度を育み、自己有用感・自己肯定感を高める。
(4)心身の発達段階の理解に根差した心の教育を推進することとおし、思い遣りの心や人権意識に満ちた学校風土を醸成する。
(5)学校における働き方改革を推進し、よりよいパフォーマンスを発揮するための適切な休養を含めた勤務体制の構築に努める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1)新学習指導要領の学習評価に即した授業体制による学力の向上、並びに主体的な学習体制の構築	①ICTを活用した授業を効果的に実践し、主体的に学ぶ姿勢を育み、思考力・判断力・表現力を育む授業の深化を図るとともに、学習課題を積極的に提供し、家庭学習習慣を定着させる。
	②自己分析や大学・職業研究、課外や模試等をより体系的に実施し、希望進路の着実な実現につなげる。
(2)自治的能力と自律心の育成	③HRや委員会における企画立案の取組等を積極的に設け、役割意識や責任感、能動的な規範意識を醸成する。
(3)切磋琢磨の奨励と心身のケア	④部活動を奨励し、特技を伸長するとともに、スポーツ・文化・芸術を楽しむ心ややり遂げる力、連帯感等を育む。
	⑤保護者との密な連携やスクールカウンセラーの活用等により、生徒の心理的課題に早期に対応する。
	⑥希望進路実現に備える学びの時間と課外活動の時間を適切に設計できるよう指導する。
(4)働き方改革の実施	⑦適性に合った進路実現に向けて、キャリアパスポートを利用した計画的なキャリア教育を実施する。
	⑧学校閉庁日の設定等により勤務時間の適正化に努めるとともに、行事、課外活動を含む業務の精選、適正化を進める。月ごとの超過勤務時間を45時間以内、年間360時間以内となるよう、休暇の取得促進や勤務の割り振り等適正に実施する。